

日常の英語化: 天気について語る

田中茂範

ココネ言語教育研究所

天気について語る

まず用語の確認ですが、日本語でも「天気」だけでなく「気候」「気象」という関連した言い方があります。それぞれを英語でどう表現するでしょうか。専門的な区別は別として、「気候」は climate といい、地域ごとの特徴的な気象のことをいいます。rainforest climate (熱帯雨林気候)、monsoon climate (熱帯モンスーン気候)、savanna climate (サバナ気候)、desert climate (砂漠気候)、Mediterranean climate (地中海性気候)、tundra climate (ツンドラ気候)などがそれです。「気象」は weather phenomenon といい、大気の状態とその状態によって起こる雨や雪などの現象のことを指します。一番よく使う「天気」は weather で、基本的には日々の空の状態(晴れ、雨など)のことをいういい、気温 (temperature) や降水活動 (precipitation) に言及する用語です。

挨拶の言葉として「いい天気ですね」がありますが、これはおそらく日本語でも英語でも一番よくつかわれる天気表現のひとつでしょう。英語での代表的な表現には以下が含まれます。

「いいお天気ですね」 Nice day, isn't it?

「すごくいい天気だね」 Good weather, isn't it?

「素晴らしい天気ですね」 What a beautiful day! / What a nice day! / What a gorgeous day!

悪い天気がしばらく続き、やっといい天気になったとき「久しぶりにいい天気ですね」といいたければ It's nice weather for the first time in ages. といいます。少し誇張した表現ですが for the first time in ages がポイントですね。「涼しくていい天気」という場合は、It's cool and pleasant today. です。pleasant も天気と相性のよい形容詞です。

少し応用表現を見ておきましょう。とても暑い天気には It's very hot. が基本表現ですが、「じりじり焼け付くよう暑いに」とか「うだるように暑い」といいたい場合はどうでしょうか。それぞれに相当する英語表現は以下の通りです。

「じりじり焼け付くように暑い」 It's scorching (hot).

「うだるように暑い」 It's sweltering./ It's boiling (hot).

日本の湿度は不快であるとよくいわれますが、「湿度」は humidity で、「日本の湿度はとても不快だ」と英語で表現しようとするれば The humidity in Japan is so unpleasant. となります。「蒸し暑い」に当たるのは、humid が代表的ですが、sultry や muggy という形容詞もよく使われます。そこで、「蒸し暑いね」といいたいときは、It's hot and humid (sultry, muggy). で OK です。暑くてびしょり汗をかいたという状況で、馬や豚がそんなに汗をかくかどうか知りませんが、英語では I sweat like a horse [pig]. という言い方をすることがあります。「(暑くて) いやな天気ですね」は What a terrible day! とか What horrible weather! といいます。weather という名詞は無冠詞のまま使うことに注意してください。「この天気にはうんざりだ」と言いたいときはどう表現するでしょうか。「うんざりだ」に当たるのが be fed up with という決まり文句です。そこで I'm fed up with this weather. が解答になります。「この暑さにはまいちゃいますね」だと I can't stand this heat. といいます。

少し観点を変えて「この夏一番の暑さだっけ」といいたいければ I heard を用いて、I heard it's the hottest day so far this summer. ということができます。the hottest day this summer でも大丈夫ですが、正確には the hottest day so far this summer (この夏これまでで一番暑い日) となります。「今日の最高温度は 35°C 以上になるだろう」といいたいとします。今日の最高温度は the high today あるいは today's high といいます。そこで、The high today is going to be over 35 degrees Celsius. になります。「今日の最低気温」は today's low あるいは the low today といいます。Celsius は「摂氏」で、「華氏」は Fahrenheit といいます。なお、「熱中症にならないように気をつけなさい」といいたいければ、Be careful not to get heat stroke. といいます。

一方、寒いとき、「とても寒い」は It's very cold. ですが、日本語では「身を切るように寒い」とか「身にしみるように寒い」という言い方があります。英語でぴったり合う表現はありませんが、「身を切るように寒い」は The cold is biting.、「身にしみるように寒い」は The cold is piercing. が近いかもしれません。「凍えそうだ」は It's freezing. がぴったりです。「今朝はすごく寒かったですね」だと It was terribly cold this morning, wasn't it? といったところ です。

会話で「近頃涼しくなってきたね」という思いを英語で表現するには It's getting cooler and cooler these days. がぴったりです。get cooler and cooler は文法で学んだことがあると思います。「今日はちょっと寒くない？」は Don't you think it's kind of cold today? といえばいいですね。また「今夜は大雪になりそうだ」だと We're going to have a lot of snow tonight. と表現します。主語を立てるところがポイントです。

天気関連用語

ここで天気関連用語を整理しておきましょう。まずは、雨 (rain) ですが、形容詞を付けることで色々な雨を描写することができます。まず、heavy rain と light rain といえばそれ

ぞれ「激しい雨」「軽い雨」になります。hard と soft も rain と相性がよく hard rain は「強い雨」、soft rain は「やさしい雨」といった感じです。雨の種類としては、以下がよく使われます。

にわか雨 shower しとしと雨 drizzle 集中豪雨 downpour 小雨、霧雨 sprinkle

drizzle や sprinkle は動詞としても使い「雨がしとしと降っている」だと It's drizzling.、「小雨が降っている」だと It's sprinkling.といます。雨に降られてびしょ濡れ（ずぶ濡れ）になったという状況だと、soak や drench を受身の形で be [get] soaked [drenched] to the skin といます。そこで、「駅を出ると土砂降り、ずぶ濡れになっちゃった」だと It was pouring when I got out of the station, and I got soaked [drenched] to the skin.というといいですね。

「雪」は snow ですが、「みぞれ」は sleet、「暴風雪」は blizzard、「溶けかかった雪」は slush、「雪解け」は thaw、そして「ひょう」は hail といます。なお、「雪片」は snowflake で、「氷点」は freezing point です。「雪が解けている」は thaw を動詞として用いて It's thawing. という言い方をします。「初雪」は the first snow fall あるいは the first snow といます。日本語では「なごり雪」という言い方ありますが、それを英語であえて表現しようとするれば lingering snow となります。

風についても見ておきましょう。「風」は wind で、「風が強い」は It's windy.といます。風といっても「疾風」は gale、「つむじ風」は whirlwind、そして、「突風」は gust です。自然災害 (natural disasters) を引き起こすような風としては、「竜巻」「台風」それに「ハリケーン」があります。それぞれ、tornado、typhoon、hurricane です。「季節風」や「貿易風」は英語でどういふのでしょうか。「季節風」に相当する英語は monsoon で、「貿易風」は tradewind(s)といます。「砂嵐」は sandstorm で、「地吹雪」は snowdrift です。風が山脈を越えるときに起こる現象に「フェーン現象」というのがありますが、「フェーン」は英語で fehn と綴ります。

「風の最高風速」は maximum wind speed といい、「時計回りの風」は veering wind で、「時計とは逆回りの風」は backing wind といます。よく「体感温度」という用語が使われますが、これを英語では wind chill factor あるいは the temperature with the wind chill factor といます。日本語の「体感温度」に近い表現でいうと、felt air temperature (on exposed skin due to wind)と表現してもかまいません。

天気用語で「気団」は air mass といい、「大陸気団」と「北極気団」はそれぞれ continental air mass、Arctic air mass といます。「気圧」は air pressure あるいは atmospheric pressure といます。「気流」は air stream です。

天気予報の情報は「気象衛星」metrological satellite から得られます。そのための「気象観測ロケット」は sounding rocket といます。sounding は海洋用語で「探る」「測る」の意味の sound という動詞に由来する言葉です。「風速計」は anemometer といい、「風速」

は wind speed または wind velocity といいいます。「気圧計」は barometer で、日本語にもバロメータという言い方がありますね。「湿度計」と「風向計」も天気情報を得るための機器ですが、それぞれ、hygrometer と anemoscope (wind vane) といいいます。

天気予報を行う「気象予報士」は weatherman、weatherperson といいいます。「天気予報キャスター」という言い方もありますが、英語では weathercaster です。気象予報士になるためには気象学を学ぶ必要がありますが、「気象学」は meteorology といいいます。「気象学者」は meteorologist、「気象庁」は Japan Meteorological Agency といいいます。

予報官は異常気象が引き起こすさまざまな現象について「警告 (warning)」や「注意報 (advisory)」などを出します。警告には、blizzard warning (暴風雪警報)、excessive heat warning (異常高温警報)、heavy snow warning (大雪警報)、river flood warning (河川洪水警報)、tsunami warning (津波警報)、earthquake warning (地震警報) が含まれます。

「酷暑」は severe wave で、「熱波」は heat wave、そして上でも出てきましたが「熱中症」は heat stroke です。weather advisory といえば「気象注意報」のことで、最近では「不快指数」(discomfort index)、「花粉情報 (pollen information)」なども天気予報で教えてくれますね。

最後に、「雲」についても一言。日本語で「積乱雲」とか「高層雲」のような言い方をしますが「積乱雲」に当たるのは cumulonimbus clouds といい、「高層雲」は altostratus clouds といいいます。専門用語ですね。日本語では積乱雲のことを日常的には「入道雲」といいいますが、英語でも towering clouds ということがあります。ただし、英語では cumulonimbus clouds のほうが伝わりやすいようです。「積雲」のことを cumulus clouds といい、天気予報でも使われます。

このように「天気」という話題をひとつとっても、学ぶことがたくさんあります。ここで紹介したものは日本語でなら日常的に耳にする表現ばかりです。「日本語でならいえる」ことを英語でも同じようにいえるようにするといいですね。これが「日常の英語化」ということです。